

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●菊花賞ではワールドプレミアがG I 初制覇を果たす

10月20日(日)に行われた菊花賞(G I)ではワールドプレミア(牡3歳/栗東・友道康夫厩舎)が優勝、G I 初出走初制覇を果たしました。春のクラシック不出走馬による菊花賞勝利は、2017年キセキ、2018年フィエールマンに続き3年連続、通算23頭目のこと。1988年スーパーリーグで菊花賞最年少優勝(19歳7か月23日)を記録している鞍上の武豊騎手(栗東・フリー)は、今回は50歳7か月6日で勝利し、伊藤勝吉元騎手の48歳9か月23日を更新する最年長優勝記録も樹立。また史上初となる昭和・平成・令和、三つの元号でのG I 制覇も達成しました。

●C.ルメール騎手が騎乗機会7連勝を達成

10月19日(土)の4回東京6日、クリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は第8レースから第12レースまで5連勝を飾り、翌20日(日)の4回京都7日には第2レース、第3レースと勝利、騎乗機会7連勝を達成しました。これは武豊騎手、J.モレイラ騎手に並ぶJRA史上最多タイ記録となります。

●メロディーレーンがJRA重賞最少体重出走記録を更新

10月20日(日)に行われた菊花賞(G I)では、メロディーレーン(牝3歳/栗東・森田直行厩舎)が馬体重340kgで出走しました。これは成績公報に馬体重が掲載されるようになった1970年以降では、1970年デイリー杯3歳Sのイチバンブ、1976年桜花賞のジョータカバルが記録した358kgを更新するJRA重賞最少体重出走記録となります。

●マイネルバサラ、サーストンコラルドの競走馬登録抹消

2017年浦和記念(Jpn II)の勝ち馬マイネルバサラ(牡6歳/美浦・松山将樹厩舎)は、10月18日(金)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績30戦5勝・地方5戦1勝で、今後は地方・浦和競馬に移籍する予定です。2018年東京ハイジャンプ(J・G II)などの勝ち馬サーストンコラルド(牡8歳/栗東・橋田満厩舎)は、10月23日(水)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績36戦6勝で、今後は茨城県ひたちなか市のセント乗馬クラブで乗馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●野路菊S 3着のエキサイターが重賞制覇【各地の主要2歳重賞】

兵庫若駒賞(10月17日、園田、1400円)は、5番手から4コーナーで先頭に立ったエキサイター(牡、父ベルシャザール)が後続を3馬身引き離し、単勝1.1倍の支持に応えました。前走の野路菊S(阪神、芝)は3着でしたが、ダートでは5戦5勝です。若駒賞(10月13日、盛岡、1600円)は、単勝1.4倍の支持を集めたグランコージー(牡、父ベルシャザール)が、2番手から3コーナー過ぎに抜け出して3馬身差で完勝、デビュー以来の連勝を4に伸ばしています。兼六園ジュニアC(10月15日、金沢、1500円)は、3番手を進んだ単勝1.8倍で断然人気のハイタッチガール(牝、父フリオーソ)が残り100円で差し切り、前走の金沢プリンセスCに続く重賞勝ち。ゴールドウイング賞(10月17日、名古屋、1600円)は、先手を取った単勝1.4倍で圧倒的人気のインザフューチャー(牡、父ノーザンリバー)が首の上げ下げの接戦をハナ差で制し、無傷の3連勝。鎌倉記念(10月22日、川崎、1500円)は、逃げた単勝1.4倍で1番人気のインペリシャブル(牡、父エスポワールシチー)が後続をクビ差振り切り、こちらも無敗の4連勝を達成しています。

●キメラヴェリテらが出走、10月31日の北海道2歳優駿(門別)

北海道2歳優駿(Jpn III、10月31日、門別、1800円)は、JRA所属馬はキメラヴェリテ、ピオノノ、マイネルアストリア、ラーラクロリという序列になりますが、地元のヨハネスボーイ、ティーズダック、アジュバントらが強敵となりそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G I コーフィールドC～メールドグラスが快勝

10月19日にオーストラリアのコーフィールド競馬場で行われたG I コーフィールドC(3歳上、芝2400円)は日本から遠征したメールドグラス(牡4歳、父ルーラーシップ、栗東・清水久詞厩舎)がD.レーン騎手を背に後方待機から直線で鋭く伸びて優勝。G I 初制覇を果たしました。1馬身差の2着にG 3 タタソールズCを勝った地元馬ヴァウアンドディクレア。勝ったメールドグラスはこれでG III 新潟大賞典、G III 鳴尾記念、G III 小倉記念に続いての重賞4連勝。コーフィールドCを日本調教馬が制したのは2014年のアドマイヤラクティ以来2度目のことです。

●G I チャンピオンS～マジカルが人気に応える

イギリスのアスコット競馬場で10月19日に行われたG I チャンピオンS(3歳上、芝2000円)は単勝2倍の1番人気に支持されたマジカル(牝4歳、父ガリレオ、愛A.オプライエン厩舎)が先行策から直線で抜け出すと、G 3 ローズオブランカスターSの勝ち馬アディブに $\frac{3}{4}$ 馬身差をつけて優勝しました。日本のディアドラは中国の内ラチ沿い追走から直線で追い上げましたが勝ち馬から3馬身差の3着でした。勝ったマジカルは2走前にG 1 アイリッシュチャンピオンS(芝2000円)に優勝。前走のG 1 凱旋門賞はヴァルトガイストの5着でした。